

朝刊・夕刊 ストーリー Myニュース 日経会社情報 人事ウォッチ 日経ビジネス

お申し込み

無料会員

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン スポーツ 社会・暮らし 地域 文化 LIVE イフ

佐久市の浅間総合病院 肥満改善ヘリモート指導

医師や栄養士 血糖値と食事、データで確認

2021年5月22日 1:49 [有料会員限定]

保存



長野県佐久市の佐久市立国保浅間総合病院が肥満や脂肪肝の改善に向けてオンラインで患者に助言する「佐久リモートプロジェクト」を始めた。食事内容などを助言するほか、24時間連続で血糖値を測定できる装置を装着した患者のデータを医師が確認して指導に生かす日本初の試みだ。

プロジェクトは体重と身長バランスをもとに体格をみるBMIが25以上の肥満症で、糖尿病ではない人を募集。30人が参加している。参加者は毎日、起床時に体重を測り、間食も含めて食べた物を写真に撮って記録する。栄養士は記録を確認し、毎日メールで助言する。

血糖値も1カ月のうち2週間計測。腕に小さな測定器を1日24時間貼り付け、血糖値の変化を記録する。医師は食事内容など含めたデータを分析し、月に1回、患者に電話でアドバイスする。こうした取り組みを3カ月間続けて、最終的には体重を6キログラム程度減らすことを目標としている。

プロジェクトの最大の特徴はすべてがオンラインで完結する点にある。患者が浅間総合病院を訪れるのは初診時と3カ月後の2回だけ。食事内容や血糖値など患者のデータはすべてクラウドに蓄積し、栄養士や医師からの助言はメールや電話を活用する。

プロジェクトの中心メンバーは、浅間総合病院の尾形哲外科部長と西森栄太内科部長。同病院の取り組みを知った中央大学が研究費を提供して研究全体を管理し、患者への助言などで信州大学医学部、長野市民病院の医師も加わる。

「病院に来なくても治せるシステムを作りたい」。尾形氏はプロジェクトの狙いをこう説明する。医療機関は外来受付の時間が限られており、仕事をしていると通院できない人も多い。地域によっては近隣に医療機関がないということもある。

こうした課題を解決するため、同病院は2017年から「スマート外来」、19年からは「佐久スマートプロジェクト」に取り組んできた。ただ、これまでの取り組みは患者が食事や体重を記録するのは今回と同様だが、月に1回は対面での診察や栄養指導が必要だった。

スマートプロジェクトの80人以上の参加者のうち、2割は長野県外在住者。月1回とはいえ来院には時間も費用もかかる。新型コロナウイルスの感染拡大により、対面で診察を受けることがこれまで以上に難しくなっていることもあり、オンライン化の重要性がさらに高まっていた。

オンラインで適切な指導をするために重要な役割を担うのが、持続血糖測定器だ。糖尿病の治療向けに保険適用されているが、今回は日本で初めて糖尿病ではない人のデータを計測する試験的な調査になる。

測定器は500円硬貨ほどの大きさで、片面に小さな細い針が付いている。これを上腕部に貼り付けることで針が皮膚に刺さって血糖値を測定する。計測結果はスマホ経由で専用のクラウドに送り、医師がチェックする。これまで医師が血糖値を確認できるのは、月1回の外来受診日の検査データだけだった。新たな測定器を使うことで、外来受診をしなくてもリアルタイムでデータを確かめられる。

肥満改善に力を注ぐのは、肥満の先にはドミノ倒しのように脂肪肝、そして糖尿病、肝硬変といった病気が控えているためだ。「ドミノの最初の部分で止めることがとても重要」（尾形氏）。

次の一手として準備しているのが地元企業との連携だ。メタボ健診を受けた結果、必要な社員に減量に取り組んでもらう。社員の健康は企業にとっても重要な経営課題の一つ。企業と連携すれば、産業医や総務・人事など担当部署とも連携し、社員をサポートできる。こうした取り組みを通じて「長野県全体にこのメソッドを広げる」（尾形氏）ことを目指している。

（塚越慎哉）

すべての記事が今なら2カ月無料で読み放題

春割で申し込む

保存



こちらもおすすめ(自動検索)